

# 監視怖い 「共謀罪」止める

## 「大垣警察市民監視事件」原告・船田さん語る

内心の自由を奪う開いた「共謀罪の本質」「共謀罪」法案が閣議決定された21日、「大垣警察市民監視事件」の原告の一人、船田伸子さん(60)は岐阜市内で警察による市民監視の怖さを語り、「共謀罪を許してはならない」と訴えました。岐阜・九条の会が



「大垣警察市民監視違憲訴訟」原告の船田伸子さん=21日、岐阜市

事件は、中部電力の子会社シーテックの風力発電所計画をめぐり、地元住民が勉強会を開いたことから、大垣警備課課長らが勉強会を行っていた住民2人と、勉強会とは無関係の2人の4人分の個人情報やシーテックに教えていたもの。「反対運動を発生させないための相談」など

電計画に反対する住民でもないのに、なぜ私の個人情報が必要なのか」と指摘。「病気のことも一部の人は知らないのに、なぜ警察が知り得たのか。以前から監視対象だったのか、とても怖い」と語りました。

その上で、「共謀罪」は現代の治安維持法であり、何度も廃案になっているのに、今度はテロ対策だとウソまで言って成立させようとする怖さを指摘。警察が「盗聴・盗撮・スパイ」の捜査手法で国民を監視し、内部からの密告、扇動を通して犯罪者に仕立て上げる恐ろしさを強調。安保法制(戦争法)と共謀罪は「戦争する国づくり」への最後の一手だとして警告し、「心の支えは現憲法であり、共謀罪が実施されないようたたかう」と語りました。

参加者から「共謀罪はまだ自分のところまで距離はあると思っていましたが、身近なところまで迫っていることに気づいていないことがとても怖くなった」と話しました。

## 東海・北陸信越のページ